

令和元年度 大田区立東調布中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

◆学校規模 ・全校生徒数 468名 ・学級数 通常学級12学級、特別支援学級3学級 ・教員数29名(校長・副校長・養護教諭含む)
 ◆学校の特色 ①生徒会とJRC(青少年赤十字)が中心となり、ボランティア活動が盛んである。
 ②部活動については、運動系が10部、文化系が9部、合計19部活と数多く開設している。
 特色ある部活動としては、琴・三味線部、華道部、チャリティー部等がある。運動部も区内上位の部活が多い。
 ③学校支援本部と学区5町会が学校に対して大変協力的で、日常的に緑化活動が行われている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	生徒アンケートで「人のいやがることをしたり、言ったりしていない。」の肯定的回答の割合	4: 90%以上	3 ・「人のいやがることをしたり、言ったりしていない」の肯定的な回答した生徒の割合は、86.2%であり、成果評価は3である。その他の生徒アンケート項目の肯定率は ①「授業で配布された資料はまとめている」→89.6% ②「授業で学習したことは理解できている」→83.6%となっている。情報活用能力等の指標として見るとあともう一歩である。 ・ものづくり教育・学習フォーラムでは、家庭分野(ソーイング部門)の競技会に参加し、最優秀賞と優秀賞を受賞し、成果が表れている。 ・東京都大田区新聞大好きプロジェクト「親子で読む新聞コンクール」において積極的に応募し、優秀賞等10人の生徒が表彰されるとともに学校としても内容優秀賞として表彰され、学習成果が表れている。 ・12月の人権週間において、区からの「人権に関する学習資料」を活用した授業を実施し、いろいろな視点で考えさせ理解を深めた。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。		3: 80%以上	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。		2: 70%以上	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。		1: 70%未満	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。			
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	生徒アンケートで「授業はわかりやすい。」の肯定的回答の割合	4: 90%以上	3 ・「授業がわかりやすい」に肯定的な回答した生徒の割合は、84.6%であり、昨年度より2.1%下回っているが、成果評価は3であり、大きな変化は見られない。 ・区の学習効果測定や都の学力向上を踏るための調査を分析し、教科部会において授業改善プランを作成し、授業に生かしている。 ・英語、数学では全学年で習熟度別少人数展開で授業を行い、生徒一人一人の学力レベルにあわせた学習環境を整え、話し合い活動や発表活動を取り入れた授業を充実させている。また、学習指導講師等による放課後補習教室の参加生徒は昨年度よりも増え、授業との連携を深めている。基礎レベルの生徒について学習意欲を高めていくことが課題である。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。		3: 80%以上	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。		2: 70%以上	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。		1: 70%未満	
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	生徒アンケートで「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の肯定的回答の割合	4: 90%以上	4 ・「きまりを守る」に肯定的な回答をした生徒は、92.7%とここ数年ほぼ同じレベルで推移し、成果評価は4となる。その他の生徒アンケート項目の肯定率では ①「あいさつをきちんとしている」→88.1% ②「身なりが整っている」→89.3% ③「学校生活は楽しい」→89.3%と90%まで後もう一歩であり、概ね良好と言える。 ・来年度の「道徳」の教科化実施に向け、授業内容や評価の仕方等について計画的に校内研修会を開き、指導の充実に向けている。道徳地区公開授業では授業後の意見交流会を活用し、地域からの意見等を聞き入れ、地域全体で自尊感情の高揚につなげられるよう取り組む。 ・特別な配慮を要する生徒の対応については、教員の共通理解が必要であるため、毎週金曜日にスクールカウンセラーを交えて生徒連絡相談部会を開き、情報共有を図っている。不登校生徒についても同様に、相談部会において外部機関等も含めた改善策を検討し、組織的な対応に努めている。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。		3: 80%以上	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。		2: 60%以上	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。		1: 60%未満	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。			
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	生徒アンケートで「前年度より体力、持久力などが向上した。」の肯定的回答の割合	4: 80%以上	3 ・「前年度より体力が向上した」に肯定的な回答をした生徒は、73.4%であった。昨年度に比べ0.4%減少した。学年毎にデータを分析すると、例年のことであるが3年生の否定的回答が66.9%と顕著に低く表れている。部活動が終了した年度後半の体力の衰えについてどうするかが課題となっている。 ・教科だけでなく、委員会活動を通して「食育」について指導し、食生活についての意識を高めている。給食試食会や地域教育連絡協議会においても実際の給食を食べていただき、給食指導について理解を得ることができた。処分する牛乳や残菜を減らしていくことが課題である。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。		3: 70%以上	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。		2: 60%以上	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	保護者アンケートで「学校は学力の定着のために授業を工夫している。」の肯定的回答の割合	4: 80%以上	3 ・この設問については、回答することが難しいとの意見を受け、一昨年度から「わからない」の回答項目を設定した。その「わからない」の回答数を除くと、肯定的な回答は、73.2%となり、成果評価は3である。 ・OJTを活用して、経験の少ない若手教員の育成を教科、学年などで組織的に行っている。また、教員相互の授業参観や意見交換を行い、個々の授業改善を図り、わかる授業実現に努めた。 ・昨年度から導入したハイパーQUIについては、学校生活調査(メンタルヘルスチェック)と併用して活用することで、生徒に対して以前よりも組織的な対応ができるようになった。生徒が個人で抱えている問題や生徒間同士のトラブル等について早期発見、未然防止に努めている。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。		3: 70%以上	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。		2: 60%以上	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。		1: 60%未満	
プラン6 一学校・一家庭・一地域が進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	保護者アンケートで「学校は学校行事などに地域の協力を得ている。」の肯定的回答の割合	4: 80%以上	4 ・「学校は地域との連携に努めている」に肯定的に回答した保護者は、85.6%であり昨年度と比べて5.8%減少した。また、上記項目同様「わからない」と回答した数を除く割合は、94.6%となった。 ・ガーデンパーティや地域の行事において、吹奏楽部や三味線部、合唱部、チャリティー部など多くの部活動が参加し、その他にも運営についてのボランティア活動に積極的に参加する生徒が増え、地域と共働する意識が高まっている。 ・校庭の緑化活動や職業人講演会など学校支援地域本部との連携する活動については、例年通り取り組むことができ成果を上げている。来年度の以降については大きな転換期となっており、新しい体制作りが課題となっている。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。		3: 70%以上	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。		2: 60%以上	
		PTA活動や地域行事に積極的に参加し、地域との連携を図る。		1: 60%未満	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。